

経営支援員と二人三脚



55人の経営支援員は地域の小規模・中小企業の経営改善と持続的発展に向け、支援を行っています。経営者とのコミュニケーションをしっかりと取りながら、課題の解決とさらなる発展に向けた支援活動を展開中。

京こまで伝える 古都の伝統美

京都知恵産業フェアなど京商の販路開拓支援事業を活用しながら、首都圏のバイヤーなどにも京こまを売り込んでいきたいですね。また、遊び道具としてだけでなく、例えばインテリアやウォールパネルなど、京こまの新たな用途開発にも積極的に取り組みたいと考えています。

小規模事業者の悩みに応える支援制度

10年ほど前、京商の支援でマル経融資(小規模事業者のための融資制度)を利用しました。当時は、製造卸を中心に展開していましたが、経営支援員の指導をきっかけに、百貨店のイベントや実演販売などにも積極的に参加するようになり、露出度を増やすことで店の知名度を高めることができました。

イベントでは、商品を美しく見せる展示台やポスターなどの備品が必要ですが、小規模事業者にとってすべてを自費でまかなうのは容易ではありません。そんなとき、経営支援員が当社の悩みにぴったりの補助金制度を紹介してくれ、欲しかった備品を少ない負担で揃えることが可能に！例えば、夏のイベントでは、清流をイメージしたアクリル板の上に金魚をあしらった京こまを泳がせるなど、季節感あふれるディスプレイでお客様の関心を引き寄せることができました。

店舗販売の拡充で観光客に魅力を発信

今まではイベントや催事での売り上げが中心でしたが、昨今の販売チャンネルの多様化に対応していくため、経営力向上計画の策定をきっかけに、店頭での製造直売に力を注いでいこうと考えています。今年度、経営支援員のサポートで新たな補助金制度を活用し、店舗の玄関をリニューアル。全面ガラス張りのオープンなつくりで、店内には多種多様な京こまを展示し、商品に触れて回してもらえるようなスペースも設けました。また、表通りに面して、私たちが何を売っているのか分かるような看板を設置しました。

当社の周辺は二条城や神泉苑などの名所旧跡が点在し、最近ではインパウンドの観光客も多く見かけるようになりました。今後は、京商の専門家派遣制度などを活用しながら、店頭でのさらなる売り上げアップを目指したいですね。お客様との対面販売を通して、京こまの魅力をどんどん発信していこうと考えています。



京こま職人の中村佳之さん

企業概要



竹の芯に織生地を巻き重ねて作る、京こまならではの伝統的な素材・製法を守り続けている国内唯一の匠。単なるモノの販売ではなく、京こまづくりの背景にあるストーリーを伝えるために、百貨店のイベントなどに積極的に参加し、実演や体験教室を通してその魅力を発信し続けている。実店舗では京こまの制作現場も見学することができる。

京こま雀休

代表者／中村 佳之
住 所／京都市中京区神泉苑町1
T E L／075-811-2281